

『第 72 回 全国都市問題会議』 報告

日 時 : 2010 年 10 月 7 日～8 日

場 所 : 神戸文化ホール

テーマ : 「都市の危機管理」協働・参画と総合対策

【内容】

1 日目は、主催者・来賓の挨拶の後基調講演・主報告・一般報告が行われた。基調講演は中邨章氏による「自治体の危機管理 公助自助のはざままで」が行われた。各国の行政に対する信頼度が低い、日本は行政に対する期待度が大きいとの視点から「諸外国では行政に期待しない自己処理型であるが日本は行政に対する信頼は低い期待度は高い」。災害は自助が 7 割、共助が 2 割、公助が 1 の割合であり行政は最後になるとの見解を示し、自助必要性を訴えられた。危機管理の 4 識は、意識・認識・知識・組織の 4 つを認識すること、危機管理対策では、お金かからない施策としてソーシャルリスクマネジメント（普段からいろんな職種方と顔見知りなること）D I G（住民と地域を認識しながら災害に備えること）の提案があった。自治体側は、情報収集・市民への情報伝達・人事編成などをしっかりと行い、普段から職員は災害に何をやらなければいけないか認識をしておく必要があり、役所の耐震化を進め、できれば危機管理センターを設置する。平常時からの住民サイドのつながりや、業者とのつながりを持ち、市民防災リーダー・インストラクター育成や大学や高校との連携も必要。神戸市は、震災を経験から危機管理体制については先進自治体でありインフルエンザについても素早い対応がされている。災害は初動対応がきわめて重要であり、指令を下すトップのリーダーシップも必要。シミュレーション対応の習慣を身につけ危機管理に対する勉強を怠らず、前例に倣われない対応が重要であると報告があった。

2 日目は、パネルディスカッションでは、自治体首長や有識者の事例報告後、危機管理体制についての討論が行われた。特に印象に残った事は防災訓練を見直しである。実際災害が起きた場合、防災訓練通りに進まない場合が多く、うまくいかない防災訓練を行う事も必要。また、組織作りは必要だが、何でもトップの見解を仰ぐのではなく、各組織で対応できる体制作りも必要である。

